

日本研究・知的交流事業に必要な経費

欧州・中東・アフリカ交流事業費

1. 日本研究事業費

- (1) 日本研究ネットワーク強化（主催）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (2) 日本研究ネットワーク強化（助成）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (3) 日本研究機関支援〔欧州・中東・アフリカ〕

2. 人物交流事業費

- (1) 日本研究フェローシップ（学者・研究者）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (2) 日本研究フェローシップ（論文執筆）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (3) 日本研究フェローシップ（短期）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (4) 知的リーダー交流（招へい）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (5) 知的リーダー交流（派遣）〔欧州・中東・アフリカ〕

3. 催し等事業費

- (1) 知的交流会議（主催）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (2) 知的交流会議（助成）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (3) 市民青少年交流（助成）〔欧州・中東・アフリカ〕

欧州・中東・アフリカ交流事業費

1. 日本研究事業費 / (1) 日本研究ネットワーク強化 (主催) [欧州・中東・アフリカ]

学問分野を超えた日本研究者・研究機関相互の連携と協力を推し進め、各国・地域における中核的な知日層とわが国の長期的な関係を維持発展させるため、海外の日本関連学会や元日本人留学生の組織化・活動を支援する。

合計額 3,368,316 円

	事業名	開催国	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	中・東欧日本研究 巡回セミナー	ブルガリア	ソフィア	ソフィア大学経済 学部	ソフィア大学	2009. 11. 03 ~ 2009. 11. 11	角南篤 (政策研究大学院大学准教授) 小川三 郎 (一橋大学教授) を3カ国に巡回派遣し、日 本の企業文化について講演
		ルーマニア	ブカレスト	ブカレスト経済大 学	ブカレスト経済大 学		
		ハンガリー	ブダペスト	コルヴィヌス大学	コルヴィヌス大学		

欧州・中東・アフリカ交流事業費

1. 日本研究事業費 / (2) 日本研究ネットワーク強化 (助成) [欧州・中東・アフリカ]

国境・学問分野を超えた日本研究者・研究機関間の連携、相互協力を推し進めるべく、学会の横断的な組織化を支援する。

合計額 27,784,829 円

	助成対象機関	対象国	期間	事業内容
1	天理ワークショップ準備委員会	英国	2009.04.01 ~ 2010.03.31	海外日本研究司書のための天理古典ワークショップを支援
2	英国日本研究協会	英国	2009.08.01 ~ 2009.12.31	英国の東アジア研究学会と日本研究学会が合同で学会を開催し、研究者交流を実施
3	ドイツ日本研究会	ドイツ	2009.05.01 ~ 2010.03.31	第14回ドイツ語圏日本研究者学会を支援
4	オスロ大学図書館	ノルウェー	2009.04.01 ~ 2010.03.31	NIAS Linc (アジア研究に関わる北欧機関) の運営するウェブサイトを通じて優良な日本語データベースを提供
5	オスロ大学	ノルウェー	2009.10.01 ~ 2010.03.31	第7回北欧現代日本研究会を支援
6	日本資料専門家欧州協会 (EAJRS)	欧州地域区分困難	2009.04.01 ~ 2010.03.31	第20回国際日本資料専門家欧州協会研究集会を支援
7	ヨーロッパ日本研究協会 (EAJS)	欧州地域区分困難	2009.04.01 ~ 2010.03.31	ヨーロッパ日本研究協会 (EAJS) 事務局運営費及びPh.Dワークショップ開催を支援
8	ロシア日本研究者協会	ロシア	2009.04.01 ~ 2010.03.31	国際会議、紀要出版、リサーチプロジェクト、論文コンテスト、事務局経費の支援
9	テルアビブ大学	イスラエル	2009.04.01 ~ 2009.09.30	テルアビブ大学東アジア学科が東アジア研究の年次大会を開催。イスラエル国内から約100名の参加。東アジア研究者の研究成果発表と研究者間交流を目的とし、同研究の発展への貢献を目指す学会を支援

1. 日本研究事業費 / (3) 日本研究機関支援 [欧州・中東・アフリカ]

各国において日本研究の中核的役割を担うべき単一・少数の機関に対し、日本研究事業の拡充・発展に必要な様々な支援を、包括的、集中的且つ中長期的に行い、該当国の日本研究基盤となる拠点機関の整備を進める

合計額 49,049,464 円

	対象機関	対象国	期間	事業内容
1	アイスランド国立大学図書館	アイスランド	2009.04.01 ~ 2010.03.31	日本研究関連の図書寄贈
2	ヴェネチア大学	イタリア	2009.04.01 ~ 2010.03.01	イタリア最大の同大日本研究学部専属図書館の充実、20世紀を通じての日本における前衛を俯瞰しその社会的文化的影響を討議する国際会議、及び水戸学に関する集中講義の実施を支援
3	ブリストル大学	英国	2009.04.01 ~ 2010.03.31	日本研究関連の図書寄贈
4	シェフィールド大学	英国	2009.09.01 ~ 2010.08.31	日本ビジネス・経済学担当講師の給与助成
5	ロンドン大学東洋アフリカ研究学院	英国	2009.09.01 ~ 2010.08.31	日本経済分野の専任教員雇用のための経費助成
6	チューリッヒ大学	スイス	2009.06.25 ~ 2009.12.31	「江戸時代の日本と諸外国」に関する講義を支援

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	対象機関	対象国	期間	事業内容
7	サラマンカ大学	スペイン	2009. 04. 01 ～ 2010. 03. 31	人文・社会科学分野の図書寄贈
8	ケルン大学	ドイツ	2009. 04. 01 ～ 2010. 03. 31	研究の一次資料に準ずる文献、特に文化史、女性史、日中関係に関する図書の補充を支援
9	ハイデルベルク大学	ドイツ	2009. 09. 01 ～ 2010. 08. 31	日独両語間の通訳養成修士課程を世界で初めて設置。3年間の期間で教員拡充を行い、被採用者は通訳翻訳に関する3つの講座を担当
10	オスロ大学	ノルウェー	2009. 04. 01 ～ 2010. 03. 31	現代日本研究分野の客員教授派遣及び日本研究関連の図書寄贈
11	国立政治学財団	フランス	2009. 09. 15 ～ 2010. 06. 15	日本講座「ジャパン・チェア」への支援。前期（10～2月）と後期（2～6月）それぞれ1名の日本人教授が申請団体にて集中講義を実施
12	ルーヴァン・カトリック大学	ベルギー	2009. 04. 01 ～ 2010. 03. 31	ベルギー唯一の日本学科として、近世・近代・現代史、言語学、政治、法学、経済学などの教育・研究を進めており、これらの分野の専門図書拡充を支援。また日欧の法制度の改正の過程、新制度の導入・実施等について会議を支援
13	タシケント国立東洋学大学	ウズベキスタン	2009. 04. 01 ～ 2010. 03. 31	政治・経済、文化、翻訳分野の日本研究図書を補充。 また言語学分野での学位取得者の育成、将来における日本研究の振興に必要な日本語研究・教育の質的向上を目的として、池上嘉彦（昭和女子大学名誉教授）を派遣
14	ザグレブ大学	クロアチア	2009. 04. 01 ～ 2010. 03. 31	「日本文学入門1-6」「日本史・日本文化入門1-6」「日本語演習」講義を担当する教員の雇用経費助成及び日本研究関連の図書寄贈
15	プレショウ大学	スロバキア	2009. 09. 01 ～ 2009. 11. 30	「日本語学習コース」「日本社会論」「日本スロバキア比較研究」講義を担当する客員教授を派遣
16	カーロリ・ガーシュパール・カルビン派大学	ハンガリー	2009. 04. 01 ～ 2010. 03. 31	『日本学入門』出版助成及び日本研究関連の図書寄贈
17	ソフィア大学	ブルガリア	2009. 10. 01 ～ 2010. 09. 30	日本研究の教員拡充助成（3年計画事業の2年目）
18	極東国立総合大学東洋学大学	ロシア	2009. 04. 01 ～ 2010. 03. 31	紀要『日本言語文学研究センター通報』『日本と現代世界』と、モノグラフ『日本古典歌学』の出版助成。また「アジア・太平洋地域諸国体制における日本の立場」、「明治時代の日本近代文学の登場と発展。伝統と現在」の各テーマについて、研究者が来日し資料収集・研究を実施
19	バグダッド大学	イラク	2009. 07. 05 ～ 2009. 07. 24	バグダッド大学歴史学部に所属する教員6名の訪日研究及び人的ネットワーク形成を支援。日本側受入団体と協働し、関係機関訪問や日・イラクを対象とした研究会議を開催。イラクにおける日本研究の発展に有用な資料収集も同時支援
20	テヘラン大学	イラン	2009. 09. 01 ～ 2010. 06. 30	日本語・日本文学科への教員拡充助成プログラムにより、「翻訳論」等に関する講義を受け持つ教員の雇用、及び客員教授を派遣し、日本語教授法に関する講義実施を支援。その他、日本研究関連図書を補充
21	ダマスカス大学	シリア	2009. 04. 01 ～ 2010. 03. 31	日本語学科へ客員教授を派遣し、3、4年生向けに「日本の社会事情」や「日本社会研究方法論」等の講義を実施。また日本研究関連の図書を補充
22	アインシャムス大学	エジプト	2009. 04. 01 ～ 2010. 03. 31	日本語学科へ日本文学と言語学の担当教員それぞれ1名の派遣助成を実施。日本から電子メール等を利用した修士論文執筆指導を行う「リモート論文指導」を実施

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	対象機関	対象国	期間	事業内容
23	カイロ大学	エジプト	2009.04.01 ～ 2010.03.31	アジア研究センターにおける日本研究入門の集中講座開催を支援。また同講座へ日本経済に関する専門家を派遣

欧州・中東・アフリカ交流事業費

2. 人物交流事業費 / (1) 日本研究フェローシップ (学者・研究者) [欧州・中東・アフリカ]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 41,808,785 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	CENTONZE, Katja	カラブリア大学 非常勤講師	イタリア	早稲田大学演劇博物館	2009.06.13 ~ 2010.05.11	「身体論と技術：舞台芸術から土方巽の舞踏へ。パフォーマンスとテキストにおける身体とメディアをめぐる」
2	ORSI, Maria Teresa	ローマ国立大学 教授	イタリア	東京大学	2009.10.02 ~ 2009.12.30	注釈や、用語解説、序文、作品解説などを添えた「源氏物語」のイタリア語への翻訳の完成
3	BRUCE, David Simon	ロンドンメトロポリタン大学 上級講師	英国	京都大学経済学部	2009.10.01 ~ 2010.09.30	グローバリズムと日本経済に関する図書執筆
4	DANIELS, Inge Maria	オックスフォード大学 講師	英国	国立民俗学博物館	2009.06.27 ~ 2009.09.26	日本の都市生活における「くつろぎ」-展示
5	GARDINER, Michael	ウォーリック大学 助教授	英国	青山学院大学	2009.12.14 ~ 2010.06.12	欧米の文学論における世界文学論と1920～1970年日本文学におけるモダニズム
6	GERSTLE, Andrew	ロンドン大学SOAS 教授	英国	立命館大学	2009.09.11 ~ 2010.09.10	十八世紀の女性向け教訓書とその春本パロディ
7	HANSEN, Paul, Simon	ロンドン大学SOAS 研究員	英国	国立民俗学博物館	2009.06.14 ~ 2010.06.13	日本の都市生活におけるペットと家族の結びつき
8	RODRIGUEZ NAVARRO, Maria Teresa	バルセロナ自治大学 通訳・翻訳学部 研究員	スペイン	国際日本文化研究センター	2009.06.24 ~ 2009.09.23	明治時代の異文化間交流：文化交流の仲介者としての日本人作家、翻訳者、その役割
9	LEINSS, Gerhard	チューリッヒ大学 講師	ドイツ	京都大学	2008.09.01 ~ 2009.08.31	日本の暦の文化史的研究
10	NEIBERGER, Cordula	フィリップス大学 助教授	ドイツ	立命館大学	2009.08.04 ~ 2009.10.06	国際化とネットワークにおける埋め込み
11	HOUDART, Sophie	人類学・比較社会学研究所 研究員	フランス	多摩美術大学	2009.07.03 ~ 2009.09.08	Pixelを通して見た世界、日本のデジタル技術革新
12	PEETERS, Bruno, Henri Albert	セント・ルーカス大学 教授	ベルギー	東京大学大学院新領域創成科学研究科	2010.02.01 ~ 2011.01.28	高齢化、縮小化する社会状況における日本の都市計画の潜在性、転換の可能性及び再評価
13	BEKES, Andrej	リュブリャナ大学 正教授	スロベニア	東京工業大学	2010.02.01 ~ 2010.09.30	南不二男による文の階層構造モデルの話し手・聞き手の確立論的言語能力モデルとしての再解釈：日本語会話における統語的共起のコーパス研究
14	SEKULOVIC, Ana	メガトレンド大学 准教授	セルビア	早稲田大学政治経済学術院	2009.08.30 ~ 2009.09.30	日本の現代経済

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
15	STARECKA, Katarzyna Violetta	ワルシャワ大学 助教授	ポーランド	東京大学文学部・大学院人文社会系研究科	2010.02.17 ~ 2011.02.16	近現代日本における愛国心教育の問題点
16	KLIMOV, Vadim Yurievich	サンクトペテルブルク大学 助教授	ロシア	東京大学史料編纂所	2008.10.03 ~ 2009.08.02	19世紀初めのロシアと日本に関する史料の研究
17	KOVALCHUK, Marina Konstantinovna	極東国立総合大学東洋学大学 助教授	ロシア	大阪大学大学院言語文化研究科	2009.07.05 ~ 2010.06.30	日清戦争期の日本の新聞に診るロシアとイギリス『国民新聞』と『時事新報』の見解・比較的分析
18	PESTUSHKO, Yuri Sergeevich	極東国立人文大学 准教授	ロシア	名古屋大学大学院国際開発研究所	2008.08.31 ~ 2009.08.30	20世紀初頭の日露関係史
19	PETROV, Alexander Ivanovich	ロシア科学アカデミー 極東支部 主任研究員	ロシア	北海道大学スラブ研究センター	2009.12.03 ~ 2010.02.11	人口学的、社会的及び経済的発展のコンテキストで見たロシア極東在住日本人：1855～1991
20	SHUBIN, Valery	サハリン州立博物館 副館長／考古学研究室長	ロシア	東北大学大学院文学研究科考古学研究室	2009.07.01 ~ 2009.09.30	縄文文化考古学遺跡の研究

2. 人物交流事業費 / (2) 日本研究フェローシップ (論文執筆) [欧州・中東・アフリカ]

人文・社会学の研究者で博士論文作成のため来日する必要があるものを招へいする。

合計額 74,340,050 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	GAITANIDIS, Ioannis	リーズ大学 博士課程	英国	駒澤大学	2008.09.01 ~ 2009.11.30	宮崎県におけるシャーマンの社会医療的な役割
2	KASZA, Justyna Weronika	リーズ大学 博士課程	英国	上智大学	2008.09.01 ~ 2009.08.31	遠藤周作の文学における悪の問題
3	SWITEK, Beata	ロンドン大学 博士課程	英国	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科	2008.11.07 ~ 2010.01.07	在日インドネシア系移民の社会政治学的アイデンティティ
4	TUCK, Robert James	コロンビア大学 大学院生	英国	早稲田大学政治経済学部	2008.10.01 ~ 2009.11.30	明治時代における詩歌、小説とジャンル：鴉外、漱石、子規
5	SEIDL, Bernhard	ウィーン大学東アジア研究所 非常勤講師	オーストリア	東京国際大学	2009.08.17 ~ 2010.08.16	日本語は「回帰」するのか～日本のポップス曲歌詞に見る外来語使用の変化とその社会的意義について
6	PUTNAM, David Jerome	チューリッヒ大学 博士課程	スイス	立命館大学	2008.06.02 ~ 2009.07.02	道成寺伝説の様々な実体化において「変身」という概念
7	GUSTAFSSON, Karl Anders	ストックホルム大学 博士課程	スウェーデン	東京大学	2009.05.15 ~ 2010.07.11	日中関係の記憶とアイデンティティ：平和・戦争記念館の事例から

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
8	LOPEZ-Vidal, Lluç	ボンペウ・ファブラ大学 講師	スペイン	慶応義塾大学	2009.05.17 ~ 2010.04.03	冷戦後の日中関係における安全政策、ヘッジ への戦略？
9	FERSTL, Katja	ミュンヘン大学 博士課 程	ドイツ	東京大学	2009.06.13 ~ 2010.06.12	現代日本の消費行動における私的写真の役 割：年齢・ジェンダーを特定した比較
10	LARSEN, Per Bojesen	日本経済学チェア 研究 助手	ドイツ	東洋大学	2009.09.01 ~ 2010.02.28	知識創造：日独クラスター政策の評価
11	SCHMIDT, Jan	ルール大学東アジア研究 部日本史学科 専任講師	ドイツ	一橋大学	2009.10.06 ~ 2010.04.05	いわゆる「欧州大戦」－1914年から1938年ま で日本における第一次世界大戦と列国戦時下 の動員体制の受容と解釈
12	PATARI, Juho Matti	ヘルシンキ大学アジアア フリカ研究所 大学院生	フィンランド	明治学院大学	2008.08.05 ~ 2009.04.15	東京のホームレスの社会相関学
13	KAVEDZIJA, Iza	ザグレブ大学 研究助手	クロアチア	大阪大学	2009.09.17 ~ 2010.11.16	よき生活、理想の家－現代日本において変化 している「グッドライフ」についての考え
14	MAJSTORAC KOBILJSKI, Aleksandra	ニューヨークシティー大 学 博士課程	セルビア	同志社大学	2008.10.01 ~ 2009.09.01	京都とバイエルンにおける近代化～キリスト 教の大学を事例として
15	VASZKUN, Balazs	ブダペスト・コルヴィヌ ス大学 博士課程	ハンガリー	早稲田大学	2009.10.01 ~ 2010.08.31	ネットワーク経済の構造と特徴：限界と利益
16	LESNICZAK, Marcelina	アダム・ミツケヴィツ チ大学東洋研究所 博士 課程	ポーランド	神戸大学	2009.10.02 ~ 2010.03.31	谷崎潤一郎文学における戯曲作品と文学の中 に見られる伝統芸能のモチーフ
17	NOWAK, Wojciech Jerzy	アダム・ミツケヴィツ チ大学 博士課程	ポーランド	東京大学文学部・大学院 人文社会系研究科	2009.10.01 ~ 2010.03.31	江戸文学での言葉と図
18	RUTKOWSKA, Iga Katarzyna	ワルシャワ大学東洋学部 博士課程	ポーランド	東京大学文学部・大学院 人文社会系研究科	2009.09.30 ~ 2010.06.29	地芝居と中央歌舞伎比較研究。田舎における 町人演劇
19	SONNENBERG, Katarzyna Anna	ヤギエオ大学 博士課程	ポーランド	お茶の水女子大学	2009.09.28 ~ 2010.11.27	「樋口一葉の日記・作品における女性のイ メージ」
20	RUSU, Renata Maria	バベシュボヨイ大学 博 士課程	ルーマニア	浜松学院大学	2009.07.05 ~ 2010.09.04	日本の神話や祭事における世界軸
21	TYZHINOVA, Natalia Alexandrovna	バイカル国立経済法科大 学 博士課程	ロシア	京都大学大学院経営管理 研究部	2009.08.28 ~ 2010.08.27	日本における生命保険
22	DOTAN, Oshrat	テルアビブ大学 博士課 程	イスラエル	多摩美術大学	2009.09.05 ~ 2010.09.04	見えない世界へ：もの派における視覚と知覚 の様相、1968～1971
23	FRUMER, Yulia	プリンストン大学 博士 課程	イスラエル	東京大学	2009.06.07 ~ 2010.01.30	時間の形象：江戸時代における機械時計の歴 史的な認識

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
24	ZWIGENBERG, Ran	ニューヨーク市立大学大学院センター 博士課程	イスラエル	広島市立大学国際学部	2009.06.26 ~ 2010.06.25	沈黙の記憶：広島平和祈念館
25	ATAY, Aysegul	アンカラ大学文学部日本語日本文学科 助手	トルコ	国立国語研究所	2009.05.31 ~ 2010.05.30	日本語のタ形とトルコ語の過去形
26	EBEID, Ehab Ahmed	カイロ大学文学部日本語日本文学科 准講師	エジプト	京都大学大学院文学研究科	2009.07.17 ~ 2010.09.16	日本語とアラビア語の「トコロ性」
27	ELNOBY, Mohamed Hassan Mohamed	芸術アカデミー演劇高等研究所演劇批評学部 講師	エジプト	九州大学	2009.10.02 ~ 2010.12.01	1960年代の日本とエジプト演劇の比較研究：別役実とアルフレッド・ファッラグ
28	HAFEZ, Naglaa Fathy	芸術アカデミー言語翻訳研究センター日本研究科 准講師	エジプト	東京大学大学院総合文化研究科	2008.05.10 ~ 2009.07.09	近代日本演劇における『千夜一夜物語』（戦後演劇について）

2. 人物交流事業費 / (3) 日本研究フェロシップ(短期) [欧州・中東・アフリカ]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 11,278,341 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	HENNART, Jean-François	ティルバーグ大学組織戦略学科 教授	オランダ		2009.03.05 ~ 2009.05.03	米国の製造業に対する日本による直接投資の歴史
2	LARM, Lars Ingemar	ルンド大学日本語科 助教授	スウェーデン		2009.06.21 ~ 2009.08.05	国語学における「陳述」概念
3	KALINOWSKI, Thomas	梨花女子大学国際大学院 助教授	ドイツ	東京大学社会科学研究所	2009.12.27 ~ 2010.02.24	日本と金融のグローバルガバナンス
4	GAENS, Bart Jozef	ヘルシンキ大学欧州地域研究ネットワーク 主任研究員	フィンランド		2009.12.12 ~ 2010.01.23	ビジネス漫画を通してみる日本の企業文化－弘兼憲史の『島耕作シリーズ』を中心に
5	LEVY Christine	第三ボルドー大学日本語学科 准教授	フランス	日本女子大学	2009.06.11 ~ 2009.07.30	日本における女性運動史の概略と現代日本におけるジェンダー研究の状況
6	STIEFEL, Erhard	太陽劇団舞台美術家/仮面作家	フランス		2009.05.15 ~ 2009.06.14	能面の研究
7	BRIUKHOVETSKA, Olga	国立キエフモヒラアカデミー 准教授	ウクライナ	京都大学大学院人間・環境学研究科	2009.12.23 ~ 2010.02.20	日本映画における核（被爆）トラウマの表現について

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
8	EGOROVA Anna Aleksseyevna	国立エルミタージュ美術 館教育部門 研究員	ロシア		2009.05.25 ~ 2009.06.25	江戸期唐津焼、美濃焼、瀬戸焼（エルミタージュ所蔵品の研究のため）
9	MOLODYAKOVA, Elgena	ロシア科学アカデミー東 洋学研究所日本研究セン ター長	ロシア	法政大学法学部	2009.10.20 ~ 2009.12.18	日本社会の最新トレンドー情報化と社会寛容
10	STRELTsov, Dmitry Viktorovich	モスクワ国立国際関係大 学 教授	ロシア		2010.01.05 ~ 2010.02.24	日本におけるロシアのイメージの形成、並びにそれがロシアに対する日本の政治的戦略に果たす役割
11	JOULI, Mohamed	チュニス大学 助教授	チュニジア	筑波大学	2009.07.05 ~ 2009.08.18	日本の一村一品とチュニジアの農村開発運動：道徳経済手法に基づく比較研究
12	IKWUEMESI, Chukwuezugy Krydz	国立ナイジェリア大学芸 術学部 上級講師	ナイジェリア	国立民族学博物館	2009.10.11 ~ 2009.11.29	イボ文化とアイヌ文化間におけるコスモロジーの比較研究

2. 人物交流事業費 / (4) 知的リーダー交流（招へい）〔欧州・中東・アフリカ〕

諸外国の政治、経済、労働、メディア、教育等の各分野で影響力を有する人材を招へいし、日本側関係者との意見交換、当該分野での状況視察等の機会を提供する。

合計額 40,579,442 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ（事業内容）
1	AKBAROVA, Zulfiyya Ibrahim	環境・天然資源省 エン ジニア	アゼルバイジャン	名古屋大学	2009.10.06 ~ 2009.12.04	環境と持続可能な開発
2	RAKHIMOV, Mirzokhid	科学アカデミー歴史学研 究所現代史・国際関係部	ウズベキスタン	北海道大学スラブ研究セ ンター	2010.03.03 ~ 2010.04.28	「日本と中央アジア～多国間協力の現状と展望」についての研究
3	SADIKOV, Mirkomil Mirzalievich	科学アカデミー東洋学研 究所中央アジア・中東部 次席	ウズベキスタン	政策研究大学院大学	2009.06.01 ~ 2009.07.31	ウズベキスタンにおける農村開発政策及び土地制度改革～東アジアでの政策との比較研究
4	MUKHTAROVA, Gaini Seisenovna	哲学・政治文化学院 大学院生	カザフスタン	静岡県立大学	2009.06.10 ~ 2009.08.07	伝統文化における世界のイメージ：日本とカザフスタンの比較研究
5	MACHARASHVILI, Nana	トビリシ国立大学政治学 部社会政治学科 准教授	グルジア	名古屋大学大学院法学研 究科	2009.05.31 ~ 2009.07.30	日本における公的セクターの改革：新たな好況行政モデルの適用
6	SANIKIDZE, George	トビリシ国立大学東洋学 研究所 教授	グルジア	大阪大学世界言語研究セ ンター	2009.07.02 ~ 2009.08.15	大中东圏問題と日本
7	TSULADZE, Lia	トビリシ国立大学社会学 部社会政策研究科 准教 授	グルジア	早稲田大学文学学術院	2009.09.11 ~ 2009.10.26	現代グルジアの若者文化—東西・欧亜の十字路で

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ（事業内容）
8	NOVAK, JuriJ	リュブリャナ大学法学部 犯罪学研究所 研究者	スロベニア	京都大学	2009. 10. 05 ～ 2009. 11. 20	日本の建設業界における贈収賄と組織犯罪
9	URSIC, Matjaz	リュブリャナ大学 指導 助手	スロベニア	首都大学東京人文科学研究科	2009. 08. 01 ～ 2009. 09. 04	都市再生と創造的文化的産業－日本とヨーロッパの比較
10	RYCHLIK, Martin	『ユーロマガジン』 編 集者	チェコ	東京大学	2009. 07. 01 ～ 2009. 08. 19	科学と社会－科学はマスメディアにおいてどう伝達され促進されるのか
11	ZAGORA, Nermina	サラエボ大学建築学部 助手	ボスニア・ヘルツ ェゴビナ	神戸芸術工科大学	2009. 07. 13 ～ 2009. 09. 12	日本から学ぶ－世界的傾向と地域的文脈の相 関関係における現代のインテリアデザイン
12	ZYKAS, Aurelijus	ヴィタウタス・マグヌス 大学日本研究センター 所長	リトアニア	桜美林大学	2009. 05. 17 ～ 2009. 06. 27	成功した国の文化的イメージの伝達：日本の ケースの研究
13	ASTASHENKOVA, Elena Valentinovna	ロシア科学アカデミー極 東支部極東諸民族歴史・ 考古学・民俗学研究所政 策文化人類学センター 主任研究員	ロシア	札幌学院大学人文学部	2009. 11. 03 ～ 2009. 11. 29	中世における東アジア諸国間の文化的相互作 用の過程
14	RABOGOSHVILI, Artem Anatolievich	ロシア科学アカデミーシ ベリア支部バイカル自然 管理研究所 主任研究員	ロシア	東洋大学社会学部	2009. 09. 14 ～ 2009. 11. 09	民族的アイデンティティの面から見た日本に おける新・中国移民
15	AL-DUAIS, Khaled Mohammed Saleh	国立ホテル観光学院 学科長	イエメン	目白大学	2009. 06. 24 ～ 2009. 08. 08	持続可能な観光開発と日本の政策の研究
16	AL-ZEYARA, Abdulla Jassim Mohammed	慈善活動庁 部長	カタール	滋賀大学	2009. 10. 12 ～ 2009. 11. 05	日本における青少年教育活動に関するNPOの役 割
17	KARASAR, Hasan Ali	ビルケント大学 講師	トルコ	東京大学	2009. 07. 05 ～ 2009. 08. 18	中央アジアの地域統合に関する外部アクター の認識：日本・トルコ比較
18	BUQAWA, Afaf Mubarak	アラブ・ガルフ大学 講師	バーレーン	電気通信大学	2009. 06. 29 ～ 2009. 08. 29	情報通信技術とジェンダーの研究

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ（事業内容）
19	中東グループ研修				2009. 11. 01 ～ 2009. 11. 22	中東・北アフリカ諸国の研究者、行政官、ジャーナリスト等を対象とした訪日研修。平成20年度に実施した研修が高評価を得たため、本年度も同じテーマ「産業発展と環境」で実施。但し、前年度研修参加者からのフィードバックを元に、日本の公害病経験や現代の環境管理の実践面により力点を置いて実施した
	Al-Mahdy, Sadek	水環境省大臣 顧問	イエメン			
	Al-Manshi, Hayder Mohammed	バグダッド大学環境工学部 インストラクター	イラク			
	Alipour, Sadredin	テヘラン交通・運輸機関（民間） 教育部長	イラン			
	Ayati, Bita	テルビヤット・モダッレス大学工学部 准教授	イラン			
	Ali, Khalid Abdulla M H	環境省環境アセスメント局 大規模プロジェクト審査長	カタール			
	Almasri, Maitham .F H A	内務省陸上交通局 メカニカルエンジニア	クウェート			
	Hifthi, Rasha Najeeb	Think N Link Cooperation Managing Partner	サウジアラビア			
	Yaghmour, Mohammed kazem M M	ジッダ商工会議所 観光部門責任者	サウジアラビア			
	Rasheid Alshayeb, Mohammed	産業省化学産業総合局 課長	シリア			
	Mete, Firat	環境・森林省EIA課 職員	トルコ			
	Abdullatif, Ali Ashoor	電気・水省 シニアエンジニア・研究開発グループ長	バーレーン			
	Alaya, El Sheikh Mohamad	レバノン電力公社 装備局長	レバノン			
	Hamamou, Sabah	アハラーム新聞社 ジャーナリスト（ビジネス）	エジプト			
	Hassan, Shadwa Esmat Abdel Kader	カイロ大学政治経済学部 行政学 准講師	エジプト			
	Ounnouch, Adil	永代財産・イスラム省 建築家	モロッコ			

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ（事業内容）
20	BENDARA, Mohammed	アドラール大学 助教授	アルジェリア	上智大学	2009.08.19 ~ 2009.09.30	アルジェリア解放戦線（FLN）極東支部：1957～1962年の活動と成果
21	AYOUB, Leila	環境技術都市建物高等研究所都市化研究部 助教授	チュニジア	首都大学東京	2009.07.29 ~ 2009.08.31	持続可能な都市計画と都市デザインに関する政府の政策、手法、戦略の比較研究
22	BEN HADJ SALEM, Hajer	スファックス大学 教育指導係	チュニジア	筑波大学	2009.05.10 ~ 2009.07.07	明治期とチュニジア独立期における日本とチュニジア社会におけるジェンダーの役割に関する伝統的アプローチの再考：比較研究
23	ZOURMBA, Abdourahman	FAOカメルーン事務所 情報コミュニケーション担当職員	カメルーン	名古屋大学大学院文学研究科	2009.08.03 ~ 2009.09.04	草の根開発：北部カメルーン地域住民の参加による影響と発展の可能性の研究
24	RASOAVOLOLONA, Felistine	NGO FIANTSO MADAGASIKARA	マダガスカル	首都大学東京	2009.08.25 ~ 2009.10.22	日本の経済成長における女性の役割

欧州・中東・アフリカ交流事業費

2. 人物交流事業費 / (5) 知的リーダー交流（派遣）〔欧州・中東・アフリカ〕

日本と諸外国の知的対話の促進と、知的リーダー間のネットワークの構築・強化を推進するため、日本から知的リーダーを海外に派遣し、関係者との意見交換、当該分野での状況視察等の機会を提供する。

合計額 7,042,830 円

	事業名	氏名	現職	対象国	受入機関	期間	事業内容
1	ウィルトンパーク会議	竹川 東明	石炭エネルギーセンター 参事	英国	ウィルトンパーク	2009.10.08 ～ 2009.10.11	英国外務省系シンクタンクであるウィルトンパーク主催円卓会議に専門家を派遣。今回のテーマは「中国経済と環境・気候変動問題」
2	2009生物兵器専門家会合	古川 勝久 谷口 清州	科学技術振興機構 社会技術研究センター 主任研究員 国立感染症研究所 感染情報センター 第一室長	スイス		2009.08.24 ～ 2009.08.28	生物兵器禁止条約（BWC）の締約国が参加する年次会合のひとつ。「平和目的の生物学的科学技術の国際協力向上のための、疾病サーベイランス、検知、診断及び封じ込め等の分野におけるキャパシティ・ビルディングの促進」をテーマにした会議に専門家を派遣
3	日・EU共同シンポジウム	小池 洋次 庄司 克宏 萬歳 寛之	関西学院大学 教授 慶應義塾大学 教授 早稲田大学 准教授	欧州地域区分困難	ヨーロッパ・ポリシー・センター	2010.02.08 ～ 2010.02.09	外務省、欧州委員会及びヨーロッパ・ポリシー・センター共催「将来の日・EU関係に関する日・EU共同シンポジウム」に3名の専門家を派遣
4	国際会議「アフリカの角」におけるアイデンティティ、市民権及び地域統合に関する会議	竹田 いさみ	獨協大学 教授	ジブチ	Greater Horn Hrizon Forum (GHHF)	2009.11.07 ～ 2009.11.10	海賊対策を契機に国際的注目を集める「アフリカの角」地域において、地元出身有識者を結集し、地域の課題に対応するフォーラム（GHHF）による国際会議に専門家を派遣。テーマは「「アフリカの角」におけるアイデンティティ、市民権及び地域統合」

欧州・中東・アフリカ交流事業費

3. 催し等事業費 / (1) 知的交流会議 (主催) [欧州・中東・アフリカ]

日本と諸外国の相互理解の促進とより緊密な関係の構築、世界の知的交流の推進することを目的とした、国際的な知的共同事業 (国際会議、セミナー、ワークショップ等) を開催する。

合計額 32,190,389 円

	事業名	対象国	共催・協力機関	期間	事業内容
1	国際シンポジウム「世界のコミックスとコミックスの世界ーグローバルなマンガ研究の可能性を開くために」	日本	京都精華大学国際マンガ研究センター	2009.12.18 ~ 2009.12.20	京都国際マンガミュージアムにおいて、コミックス・マンガ研究をめぐる国際シンポジウムを京都精華大学と開催。国内外から招へいた14名の研究者によってジェンダー・社会・グローバル化等からの視点からマンガ研究の可能性を広げる討論が行われた
2	ジョン・ホールデン講演会「国境を越える文化の価値」	英国	ブリティッシュ・カウンシル 社団法人企業メセナ協議会	2010.03.11 ~ 2010.03.11	平成21年度文化人招へいプログラムで来日したジョン・ホールデン (John HOLDEN: 英国シティー大学客員教授、英国DEMOSアソシエイト) による文化の価値やアクターの観点から見た「文化外交」についての講演会
3	平和のための文化イニシャティブー日独からの提言	ドイツ	ゲーテ・インスティトゥート	2009.05.14 ~ 2009.05.15	国際交流基金とゲーテ・インスティトゥートのこれまでの事例をもとに、平和のために文化事業に求められる役割はどのようなものか、より効果的なインパクトを残すためにはどのような事業実施が望ましいのか、文化事業実施の際の難点・留意すべき点とは何かを、2日間に渡り、非公開ワークショップと公開シンポジウムにて議論
4	「子ども」シンポジウム	ドイツ	フリードリッヒ・エーベルト財団	2009.11.25 ~ 2009.11.25	ドイツの社会民主党系の政党財団であるフリードリッヒ・エーベルト財団との共催により、日独の社会保障政策の中でも特に子どもに関する政策の取り組みと社会の現状に関し、政府、学界、市民社会 (NGO/NPO) のパネリストが公開シンポジウムで討議を行い、よりよい子どもの未来に関して議論を深め、将来のより望ましい姿を探求
5	アルザス日欧知的交流事業 / 2009年日本研究セミナー「明治」	フランス	アルザス・欧州日本学研究所 (CEEJA)	2009.09.11 ~ 2009.09.12	欧州域内若手日本研究者による合宿形式のセミナー。アルザス欧州日本学研究所 (CEEJA) との共催事業。欧州内日本研究者のネットワーク構築と当該テーマにおける汎領域的研究の深化を目指し、広範な分野、専門性を持った有識者が参加しうるテーマとして「明治」を設定。講師として御厨貴 (東京大学教授) を派遣して、欧州の明治研究の発展を促進
6	欧州評議会主催会議「インターカルチュラル・シティ」報告会	欧州地域区分困難	欧州評議会	2009.07.01 ~ 2009.07.01	平成20年度知的交流会議助成事業である「インターカルチュラル・シティ」会議 (於ティルブルフ、オランダ) に出席した北脇保之 (東京外国語大学教授) と桜井啓子 (早稲田大学教授) による帰国報告会を実施。モデレーターは、田村太郎 (ダイバーシティ研究所代表)
7	「インターカルチュラル・シティ」招へい及びシンポジウム	欧州地域区分困難	欧州評議会	2009.10.31 ~ 2009.11.07	欧州評議会の進める「インターカルチュラル・シティ・プログラム」参加都市の代表、同プログラム関係者及び専門家を日本に招へいし、多文化共生政策推進地方都市を視察後、東京にてシンポジウムを開催

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	共催・協力機関	期間	事業内容
8	文化と環境（京都会議）	欧州地域区分困難	京都市	2009.12.09 ～ 2009.12.10	日本の伝統文化や古来からの自然を慈しむ文化に根ざし、今日の環境問題とそれを解決しうる産業技術との関係を、企業の社会的責任（CSR）の観点も入れつつ、研究者や企業経営者が討議。京都市共催
9	ドラゴ・シュタンブク詩集『黒い波』朗読・座談会	クロアチア	駐日クロアチア大使館	2009.07.01 ～ 2009.07.07	現代クロアチアを代表する詩人ドラゴ・シュタンブク（駐日クロアチア共和国特命全権大使）の詩集『黒い波』（2009年、思潮社）が国内で発売されたのを受け、当該詩集の朗読会を開催
10	第6回日露フォーラム	ロシア	ロシア現代発展研究所	2009.10.02 ～ 2009.10.05	ロシア現代発展研究所との共催により日露の有識者をスピーカーに招いた国際フォーラムをイルクーツク市で開催（2009年10月3日）。開会に際しては、両国外務大臣より祝辞が寄せられた。政治・経済・文化の3セッション構成で、二国間関係と日露の平和友好条約締結の重要性について討議。スピーカーの発表内容は、後日論集として刊行
11	ズィバーリ外務大臣来日シンポジウム「新生イラクと日本のパートナーシップ」	イラク	財団法人中東調査会	2009.06.19 ～ 2009.06.19	日本・イラク外交関係樹立70周年である本年、ズィバーリ外務大臣来日にあわせて、同氏を交えた日本の有識者とのシンポジウムを財団法人中東調査会と共催
12	中東知的交流巡回セミナー	バーレーン エジプト	Public Commission for Protection of Marine Resources, Environment & Wildlife, General Directorate of Environment & Wildlife Protection アインシャムス大学	2010.03.14 ～ 2010.03.20	「日本の公害病経験や現代の環境管理の実践」をテーマとした講演会をエジプト及びバーレーンにて実施

欧州・中東・アフリカ交流事業費

3. 催し等事業費 / (2) 知的交流会議 (助成) [欧州・中東・アフリカ]

日本と諸外国の相互理解の促進とより緊密な関係の構築、世界の知的交流の推進することを目的とした、国際的な知的共同事業 (国際会議等) に対し、経費の一部を助成する。

合計額 65,615,512 円

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
1	中小企業の発展：政策、アクター、諸問題／日本、アルゼンチン、イタリアの比較	イタリア	ローマ大学経済学部	2009.06.01 ～ 2010.03.31	中小企業が国の産業に重要な地位を占める日本、アルゼンチン、イタリアにおける中小企業をめぐる経済的・社会的状況について総合的に比較する国際会議の実施
2	矛をつかみ、剣を描く：同盟から相互依存世界までの日英軍事関係	英国	ロンドン大学キングス・カレッジ	2009.01.01 ～ 2009.12.31	2008年に日英外交150周年を迎えたことを受け、島国である日本及び英国にとって海軍がいかなる役割を果たしたかについて再考する国際会議を開催
3	統合と結束についての比較研究	英国	コベントリー大学コミュニティー結合研究所	2009.04.01 ～ 2010.03.31	東京にて、欧州と日本の移民政策についての国際会議を開催。日系人などもテーマ。参加者は研究者、政策関係者、NGO関係者など多様
4	人間の安全保障と平和構築セミナー	英国	コベントリー大学	2009.04.27 ～ 2009.06.30	イギリスのコベントリー大学主催が主催し、日本、EU (英、澳)、国連、途上国 (ネパール) からパネラーが参加し、「人間の安全保障と平和構築」に関するセミナーを実施。日本型/カナダ型の人間の安全保障概念のうち、日本のそれをトピックとするもの
5	バリアフリー社会に向けて：日英シンポジウム「友情と境界」	英国	グラスゴー大学欧日社会科学研究所	2009.05.01 ～ 2009.09.30	グラスゴー大学にて、日本、英国の研究者が参加し、バリアフリーに関する学際的なシンポジウムを開催
6	日英社会起業家シンポジウム～より良い社会の構築へ向け、政府、社会起業家、ビジネス、コミュニティのあるべき協働の姿～	英国	ブリティッシュ・カウンシル	2009.11.01 ～ 2010.03.31	英国の社会起業家を招へいし、社会起業についてのシンポジウムを開催
7	土偶：古代の芸術、現代のインスピレーション	英国	センスベリー日本芸術研究所	2009.11.05 ～ 2011.06.30	大英博物館とセンスベリー日本芸術研究所の共催で、縄文土偶に関する公開シンポジウムを開催。考古学上の土偶研究の領域から、古代、現代の芸術としての土偶について議論
8	ベンチャー・フィランソロピー～欧州の経験から学ぶ～	英国	欧州ベンチャー・フィランソロピー協会	2010.01.01 ～ 2010.03.31	金融危機後の非営利活動をいかにサポートするか、NPOを継続的に支援していくかをベンチャー・フィランソロピーの考え方から学ぶセミナー

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
9	日唄の安全保障に関する地域的及びグローバルな脅威への対応	オーストリア	オーストリア国際問題研究所	2009.05.01 ~ 2009.12.31	ヨーロッパと東アジアの安全保障環境及び日本とオーストリアに関するリスクと脅威を分析し検証する国際会議を、2009年10月にウィーンにて開催。ヨーロッパと東アジアの類似点・相違点を比較し、特に、大量破壊兵器拡散、エネルギー資源・環境問題、金融・経済危機の3分野につきセッションを設ける。冒頭には2つの基調講演を置き、環境の概観
10	家族構成と社会保障枠組み	オーストリア	ウィーン大学	2009.05.01 ~ 2010.03.31	2008年9月に開催された労働法・社会法に関する日唄研究交流事業の成果を受け、家族構成と社会保障体制に関する会議を開催し、日本と欧州に関する示唆を探った。より具体的には、1) 国家、家族、結婚の関係、2) 職場・雇用における家族の位置づけ、3) 国家政策から見た家族・家事、4) 家族と刑法、の観点を用いた。会議は2009年9月に京都大学にて開催
11	アジアの新興国：対立とグローバルな責任	オーストリア	ザルツブルググローバルセミナー	2009.12.08 ~ 2009.12.13	申請機関が通年で開催するセミナーのうち、日本からの専門家による貢献が期待できるセッションに対し、日本から講師等を派遣。セッション468では、特に中国・インドに代表されるアジアの新興国を取り上げ、地域及びグローバルでのその対応につき協議。2009年12月、ザルツブルグにて開催
12	日蘭水シンポジウム2009 in 岐阜	オランダ	財団法人日本国際問題研究所	2009.04.01 ~ 2010.03.31	地球温暖化によって生じる可能性が高いとされている巨大水害への対策は、日蘭共通の課題となっている。本事業では、水問題に関する両国の専門家を招いて公開シンポジウム及び専門家会議を開催し、両国の知見と経験を交換することにより、世界の水問題解決のための日蘭協力の可能性を探るとともに、度々水害の被害に見舞われてきた岐阜県を中心とした東海地域の水害対策の強化
13	ワークショップ：日韓関係	スウェーデン	ストックホルム商科大学欧州日本研究所	2009.04.01 ~ 2010.03.31	2009年8月にストックホルム商科大学にて日韓関係に関するワークショップを開催。多分野からの研究発表を集め、分野ごとに固まりがちな地域研究の枠組みを超えて検証。研究者に加え、政府関係者、学生、ジャーナリスト等も参加
14	文化都市：大阪とコペンハーゲンにおける創造性と社会的一体性	デンマーク	コペンハーゲン大学	2008.09.01 ~ 2009.10.31	コペンハーゲン大学と市内関連施設において、日本、デンマークの都市計画を文化都市という観点から研究する4日間の学際的国際セミナー
15	アジア現代性の可視化：現代日本と東南アジアの視覚芸術の地球規模の広がり	デンマーク	オーフス大学	2008.10.01 ~ 2009.12.31	オーフス大学とコペンハーゲン大学が、アジアにおける日本のソフトパワーの重要性の分析、西洋との関係、日本のポップカルチャーの国境を越えたビジネスや文化力学などについて、公開会議を開催

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
16	人口変化の課題：持続可能な生涯学習とデジタルメディア	ドイツ	ベルリン日独センター	2009. 04. 01 ～ 2009. 09. 08	高齢化の進む現代において、持続可能な生涯教育のために、Eラーニングの果たしうる役割を、日独専門家が集い検証。2009年9月にベルリンにて開催。特に、職業訓練の場でのEラーニングの柔軟性など特性を活かした利用方法・将来像に注目
17	国際シンポジウム「人口激減：グローバル及び地域的なチャレンジ」	ドイツ	ドイツ-日本研究所	2009. 04. 01 ～ 2010. 03. 31	現在の先進国における人口傾向を特に日独比較の観点から分析し、そこから生じる社会・経済・政治課題について、国家及び地元のレベルで検証し、対策を検討するもの。実証的なデータに基づき、抽象理論と具体的な現実との橋渡しをすることを目指す。2009年6月に東京において150人規模のシンポジウムを開催
18	都市創造に関する国際会議：文化、空間、持続可能性	ドイツ	ミュンヘン大学日本センター	2009. 04. 01 ～ 2010. 03. 31	都市開発と都市創造に関する比較及び学際的視点を用いて検証する国際会議。近年、「創造都市」の概念が都市都市と、グローバル化の時代における課題に対応するための方策のための、主要な枠組みとして定着しつつある。都市は、地域、国家、そしてグローバルな経済成長の推進役として見られている。今回の会議では、文化、空間、持続可能性の3点に着目し、これらの相互関係にも注目。2010年2月にミュンヘンで会議開催
19	MISHIMA! 世界への影響及び多文化的ルーツ	ドイツ	ベルリン自由大学	2009. 09. 01 ～ 2010. 03. 31	2010年が三島由紀夫没後40年に当たることを受け、世界で最も知られている日本文学者の一人である三島が、世界の文学界・芸術界に如何なる影響を与えてきたのかを検証する大規模国際会議を2010年3月にベルリンにて開催。参加者は、三島を直接知る文化人・三島に影響を受けた芸術家等。ギリシャ～欧州、仏教等、三島自身が芸術的着想を得たルーツの多文化性にも注目
20	企業の社会的責任 (CSR) — 日本とドイツのアプローチと経験	ドイツ	ベルリン日独センター	2009. 12. 01 ～ 2010. 03. 31	本会議では、日独におけるCSR政策がどのように発展し、実施されてきたかを見直し、今日のグローバル化経済において中心的役割を担うドイツと日本が、今後、東アジアや東欧においてどのような影響力を持つかを比較しつつ考察
21	欧州日本研究：グローバリゼーションにおけるチャレンジと可能性	ドイツ	ミュンヘン大学日本センター	2010. 01. 01 ～ 2010. 03. 31	グローバリゼーションや高等教育に対する予算削減などによって、欧州における日本研究は岐路に直面している。本会議では、欧州日本研究の代表的機関5機関シェフィールド、リーズ、ライデン、ルーヴァン、ミュンヘンの各大学が、一緒になって日本研究のジョイント修士プログラムや、博士取得者に対する研究トレーニングプログラムの可能性を検討。これにより、参加機関同士の連携を強化し、合同プログラムへ効率的な統治構造を確立し、資金源の同一化を図ることにより、欧州における日本研究の立場を強化

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
22	コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所創立50周年記念シンポジウム「日本研究資料とその周辺」	フランス	コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所	2009. 04. 01 ～ 2009. 09. 30	フランスの日本研究の中心であるコレージュ・ド・フランス日本学高等研究所の創立50周年記念シンポジウム。「日本研究資料とその周辺」の総合テーマのもと、「資料とその受容と伝播」「日本文学に於ける書簡の表象、テキスト、イメージ」に関するシンポジウムを実施
23	地球村の世界文学？—多和田葉子の“西東枕草子”	フランス	トゥール大学	2009. 04. 15 ～ 2009. 12. 31	ドイツ在住で日独両語で作品を発表している多和田葉子の作品世界についての国際会議。日本文学・ドイツ文学双方の世界の研究者が出席するほか、多和田作品を舞台化している日独混交劇団（本拠地ベルリン）が参加
24	ユベール・ヴェドリーヌ元フランス外務大臣講演会	フランス	財団法人日仏会館	2009. 05. 07 ～ 2009. 05. 31	アメリカ同時多発テロ発生時のフランスの外務大臣で、「同盟すれど同調せず」の姿勢を貫いた現実主義的なフランス外交を展開したヴェドリーヌ氏の講演会。現在の金融危機の背景の地政学的分析を中心に米欧日の新しい協力関係の展望を提示
25	エマニュエル・トッド招へい交流計画・国際シンポジウム	フランス	青山学院大学総合文化政策学部	2009. 09. 01 ～ 2010. 02. 08	フランスの人口統計学者・人類学者であるエマニュエル・トッドを招へいし公開シンポジウムを開催。トッドの基調報告の他、日本の経済学者・政治学者等とパネルディスカッションを実施
26	国際シンポジウム「危機を考える」	フランス	フランス国立社会科学高等研究院 (EHESS) 日仏財団	2009. 09. 07 ～ 2010. 03. 31	現在の経済危機を考察すべく、日本の現状、特に「失われた10年」の教訓を参照しつつ、日仏の第一線の研究者やビジネスマンによるシンポジウムを実施
27	国際シンポジウム「加藤周一あるいは文化多様性の考察」	フランス	アジア・イマジネーション・ネットワーク	2009. 12. 01 ～ 2010. 03. 31	評論家で医学博士の加藤周一の一周忌に日仏の研究者が日本人・日本文化の多様性について討論するシンポジウムを開催
28	京都ナボコフ国際会議	フランス ロシア	日本ナボコフ協会	2010. 03. 24 ～ 2010. 03. 27	2010年3月に京都市内にて「Revising Nabokov Revising」をテーマにした国際研究集会を開催。世界中のウラジミール・ナボコフ研究者が集う学会を支援
29	途上国の法制度改革における英米法と大陸法の制度的優位比較	ベルギー	ルーヴァン・カトリック大学 (UCL)	2009. 04. 01 ～ 2010. 03. 31	発展途上国や改革途上国の法制度改革において、経済成長という目的のためには慣習法と制定法のいずれが制度的に優位かを検証する会議を実施（第2年目）
30	日本・ヨーロッパパートナーシップ：共通のグローバル及び地域的課題に面して	ベルギー	ブリュッセル自由大学	2009. 05. 01 ～ 2009. 11. 30	ヨーロッパ・アジア関係という大きな枠組みにおける研究者、学生、政策決定者のネットワーク強化に資すべく、2009年11月にブリュッセルにて国際会議を開催。テーマは、日本とEUの共通課題である政治協力、安全保障（人間の安全保障及び紛争管理）、規制緩和、市民社会、移民に注目

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
31	日・ウズベク経済協力の展望～経済協力の促進及びウズベク経済改革の推進に関する共同宣言の枠組みにおいて	ウズベキスタン	政治研究センター	2009.08.31～2009.08.31	日本とウズベキスタンの有識者を集め、エネルギー資源開発、需要、供給の展望、エネルギー安全保障の推移等について討議
32	コーポレート・カルチャーに関する国際シンポジウム	ポーランド	レオン・コジミンスキ大学	2009.05.13～2010.03.31	ワルシャワのレオン・コジミンスキ大学においてコーポレートカルチャーに関するシンポジウムを開催
33	イメージとしての日本：日欧の交差する視点－国際社会における日本理解推進を目指して	リトアニア	ヴィタウタスマグヌス大学日本センター	2009.10.15～2009.10.16	リトアニアにおいて、学際的・国際的観点から現代日本のイメージがいかに捉えられているかについて議論するシンポジウムを開催
34	シンポジウム「アジア太平洋地域経済協力：日本・ロシア－国益、役割そして展望」	ロシア	ウラジオストク国立経済サービス大学	2009.09.23～2009.09.25	2012年にウラジオストクで予定されているAPECサミットに向け、環太平洋地域諸国としての米中韓の専門家を集め、政治、経済等の分野での今後の協力と交流について討議
35	第7回日ロ学術・報道関係者会議	ロシア	日本対外文化協会	2009.09.27～2009.10.03	「ユーラシア発展の道を模索する」を議題にモスクワで開催。日本から研究者、ジャーナリスト等19名が渡航し、ロシアの政治家、評論家、ジャーナリストと会見、また「世界恐慌と北東アジア」のテーマの下に、新しい国際経済体制と北東アジア地域の新秩序について討議
36	日・黒海地域対話「変化する黒海地域の展望と日本の役割」	欧州地域区分困難	グローバル・フォーラム	2010.01.27～2010.01.27	「変化する黒海地域の展望と日本の役割」という全体テーマのもと黒海地域、EU委員会、日本の三者より有識者をパネリストとして迎え、「黒海地域における安全の保障の戦略的意味」「黒海地域の経済発展とエネルギー・環境協力に向けた課題」「日・黒海地域協力の今後の展望」の3つのサブテーマに基づいて討論を実施
37	東アジア・東南アジアにおけるポップカルチャー、文化政策、文化に関わる言説に関する国際ワークショップ	イスラエル	ヘブライ大学附属トルーマン平和研究所	2009.06.01～2009.06.02	イスラエルにおいてアジア・中東研究で知られるトルーマン研究所が企画する国際会議。東アジア・東南アジアにおいて、ポップカルチャーが外交及び通商の観点からソフトパワーと捉えられるようになった経緯を考察。この分野における日本政府の取り組みを紹介、イスラエルの研究者とアジアの研究者との学術交流を促進
38	国際シンポジウム「部族社会の形成：シリア・ユーフラテス河中流域の総合研究」	シリア	国士舘大学イラク古代文化研究所	2009.09.01～2009.12.31	2009年11月に実施された国際シンポジウム「部族社会の形成：シリア・ユーフラテス河中流域の総合研究」を支援。シリアと日本の考古学研究者が参集

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
39	カイロ国際会議：第2回国際会議「イスラーム地域研究の新しい地平線ーアイデンティティ、共存、グローバル化」	エジプト	早稲田大学イスラーム地域研究機構	2009. 12. 12 ～ 2009. 12. 13	早稲田大学イスラーム地域研究機構が、カイロ大学文学部と日本学術振興会カイロ事務所で「アイデンティティ、共存、グローバル化」をテーマとするカイロ国際会議を共催。現在、世界が直面するグローバル化の中で、イスラーム諸国による自己のアイデンティティの定義と異文化との共存のあり方を模索
40	国際関係史学会日本大会	全世界区分困難	国際関係史学会日本大会実行委員会	2009. 04. 01 ～ 2010. 03. 31	国際関係史学会日本支部が2009年12月に東京大会を開催。ヨーロッパとアジアを比較対象としながら、冷戦、地域統合・協力などの国際政治の諸問題を検証。アジア、欧米から当該分野の専門家が参加
41	東京メディアフェス2009	全世界区分困難	アワー・プラネット・ティービー	2009. 04. 01 ～ 2010. 03. 31	市民とメディアがどう関わるべきかをテーマに東京で国際フォーラムを開催
42	国際シンポジウム「急変する世界環境における高等教育の公的役割：連携と対話による多極的イニシアティブ」	全世界区分困難	早稲田大学アジア太平洋研究センター	2009. 09. 01 ～ 2010. 02. 28	高等教育の公的役割に注目し、特に多極化する世界で大学の位置づけや社会発展への貢献を、欧州、アフリカ、東アジア、環太平洋、日本、からの高等教育研究者、オピニオンリーダーが集い、議論し、今後のあるべき姿を探求

欧州・中東・アフリカ交流事業費

3. 催し等事業費 / (3) 市民青少年交流 (助成) [欧州・中東・アフリカ]

日本と海外の市民青少年の相互理解を促進するため、日本の団体が実施または参加する事業 (通常の助成事業) に対し、旅費の一部を助成する。

合計額 4,083,600 円

事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
1 パープルリボン先進国視察事業	スウェーデン	特定非営利活動法人全国女性シェルターネット	2009.08.29 ~ 2009.11.25	パープルリボンプロジェクトの一環として、女性に対する暴力被害当事者支援について、スウェーデンの法制度整備の歴史と現状の支援体制を現地で学び、情報共有によって支援者をエンパワー
2 地球温暖化防止に向けたユース世代の国際交渉への参加とネットワーク形成	デンマーク	特定非営利活動法人気候ネットワーク	2009.12.03 ~ 2009.12.23	デンマーク・コペンハーゲンで開催される「気候変動枠組条約第15回締約国会議 (COP15)」にユースメンバー7名がオブザーバーとして参加し、その状況をWebで情報発信。さらに会議場でのブース展示、サイドイベントを開催し、各国のユースメンバーと意見交換・交流を実施
3 日本アフリカ学生会議第5期本会議	エチオピア タンザニア	特定非営利活動法人日本アフリカ学生会議	2009.08.04 ~ 2009.09.10	日本人学生がエチオピアとタンザニアを訪問し、NGOとの共同プロジェクトや、国際協力機構 (JICA)、孤児院を訪問等によって世界最貧国の現状を学び、また現地の学生と交流。その結果を日本国内で報告
4 日本ケニア学生会議第10回本会議	ケニア	日本ケニア学生会議	2009.08.04 ~ 2009.08.27	日本ケニア学生会議の第10期本会議として日本で開催。フィールドトリップや議論を通じて、様々な分野における理想の未来と自分たちの理想の未来、学生が今後担う役割について探求
5 日本ルワンダ学生会議第3期本会議	ルワンダ	日本ルワンダ学生会議	2009.12.18 ~ 2010.01.06	日本での会議開催によりルワンダ人が具体的に日本の産業、文化、人々を理解できるよう促した。平和構築の点で、被爆地・広島の子供とのディスカッションを通じルワンダ社会における、特にジェノサイド関係者の和解の在り方を議論。農業体験では技術先進国日本の別の側面を知ってもらい、相互理解を深化
6 第27回開発教育全国研究集会	全世界区分困難	特定非営利活動法人開発教育協会	2009.08.08 ~ 2009.08.09	全国の開発教育、国際理解教育の実践者・教育者が集い、地球的課題、地域の課題について議論し、教育を通してできることを考える研究集会。「くらしと世界をむすぶ学び～みちのくから考える 共に生きる"地球社会"づくり」をテーマに1日目にシンポジウムや参加型ワークショップ、2日目に課題別分科会を行った。クロアチアからリソースパーソンを招へい
7 セミナー・シンポジウム「生物多様性とは何か? ~撮影現場からの報告~」	全世界区分困難	特定非営利活動法人地球映像ネットワーク	2009.08.18 ~ 2009.08.23	2010年に愛知で開催される生物多様性条約第10回締結国会議 (COP10) に先駆け、世界的に著名な映像作家3人 (オーストラリア、インド、英国) に、撮影現場から見た生物の多様性とその意義について語るセミナーを富山県の協力で開催し、自治体関係者や聴衆との対話を通して、生物多様性とは何なのか、COP10とは何かを探求。世界自然・野生生物映像祭と併催